

綿布上のカルシウムが洗淨に及ぼす影響

○後藤純子* 永山升三**

(*共立女大・院 **共立女大)

【目的】 前報¹⁾において木綿布（日本油化学会指定綿カナキン2030）上には、多くのカルシウムが存在していることが判明した。本研究では、綿布に存在するカルシウムの量が洗淨性に与える影響を調べるために、天然汚れ組成と一致した污垢成分で汚染した綿布を用いて、洗淨力試験を行い、綿布上のカルシウムの量と洗淨性との関係を検討した。

【実験】 綿布は、前処理として非イオン界面活性剤で洗淨を行ったものと、更にEDTA-2Na溶液でカルシウム除去を行ったものを用いた。カルシウム付着量の異なる綿布を天然えりあか布の平均的な分析値に準じて作成された汚染浴で汚染し、ターゴトメーターを用いて洗淨力試験を行った。

【結果】 非イオン界面活性剤で洗淨のみを行った綿布を汚染した場合、カルシウム除去を行った綿布に比べて、污垢の付着状態に違いがあると推察される。洗淨力試験の結果から、カルシウムが多く存在する綿布の洗淨率は、カルシウム除去を行った綿布の場合より低く、綿布上のカルシウムは洗淨性を低下させる傾向がある。

1) 後藤, 永山: 第29回洗淨に関するシンポジウム要旨集 (日本油化学会) p.105(1997)